

12
74

東 京 圖 書 館

七 五 冊	七 八 號	六 架	二 六 函	小 說 類	和 書 門
-------------	-------------	--------	-------------	-------------	-------------

繪本通俗三國志

三編

池田東籬亭校正
葛飾戴斗畫圖

繪本通俗三國志

三編
全十冊

京梅書林

額田雙額堂

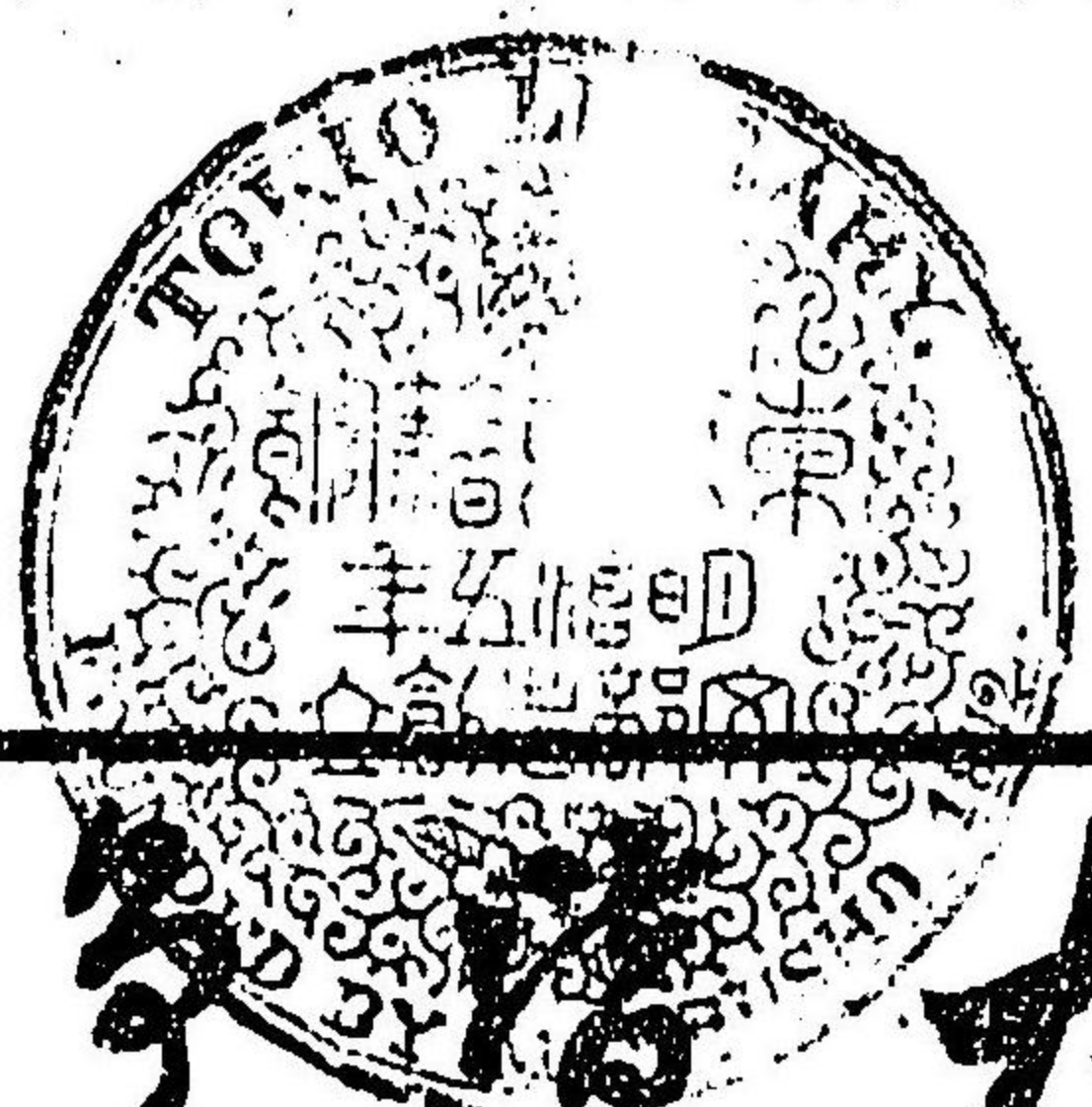
岡田羣玉堂

梓

序
雷

明治十年交換

大耳兒紫髯叔與阿瞞
清不世出之雄而並世而公
多神州猛將名如雲謀臣
如如雨事機智巧三商鑄出
是宇宙極奇之遺也



陳壽參述分寫如組織
然使人以目迷雜一變史
漢之局亦記載中之高者
而小說家又敷衍其義加
之恠幻併詭差音之奇者
矣諸子諸書之演義我獨此最

威川与水滸傳西遊記金
瓶梅並稱四大奇書三書
憑虛駕此此則依實結構
而面目可喜矣悞斯也奇矣
折三國蜀義最正而命義
寒三傑未踉跄尔而孔

吞志而終是自千古恨事
讀史者至此固極廢卷而
滄義則極弄說如人之所
欲出使向者眼眉舒則
可謂奇之極而歸於正
寫似此百太平記書中

與事亦有若說如多知其
其快人心也是小說之有
蓋世道者犯如水滸者
亂聖輯勸淫之比必向至
某真甚佳則癡人說楚類
可坊百言譯多加繡像以

使臺臺家者而窮其後半
孔明可跡不備猶太平記
而不盡載楠公事豈此大
缺隔近且謀續成者多乘
乞序於余門人以爲陋難
之曰清士大夫者深引此中

一事爲典於招人略淺况
爲之序也余聞而哂曰許之
乞人勸學其迂僻徑義
陳熟詩文無痛痒於世者
梓而之之後揭一紙人報
思睡視之此書孰能陋孰

雅正孰真腐孰神奇
毛寧舍彼取此
山陽外史纂燈閱之於扁
產書榭遂洪筆題之



向謀世書全成有故不果今又從改校獨惜世序泯滅故弁此篇云 東坡離故白



忠 系一家 瞻尚
繼寸排八陣 懿
溫 宏
報 誣武侯一 解 棋 墩



卷之四 雜錄 四

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

欠

MISSING

繪本通俗三國志三篇總目錄

卷之壹

曹操官渡戰袁紹
曹操烏巢燒兵糧

卷之二

曹操倉亭破袁紹
玄德敗走荆乃
袁譚袁尚爭冀乃
曹操決漳河濟冀城

卷之三

曹操引兵取壺関

繪本通俗三國志三篇總目錄

郭嘉遺計定遼東

卷之四

玄德赴襄陽會

玄德躍馬跳檀溪

玄德到司馬徽山庄

玄德新野遇徐庶

卷之五

徐庶定計取樊城

徐庶薦諸葛孔明

玄德三顧草廬

卷之六

玄德風雪訪孔明

定三分孔明出茅廬

孫權渡江破黃祖

卷之七

孔明遺計救劉琦

孔明博望坡燒屯

獻荊及王粲說劉琮

卷之八

孔明計燒新野城

玄德敗走江陵
長坂坡趙雲救幼主

第一回 宴桃園三兄弟 就小沛

卷之九

張飛據水斷橋

玄德敗走復口

孔明舌戰吳君羊儒

卷之拾

孔明智激孫權

孔明智說周瑜

周瑜定計破曹操

周瑜三江戰曹操

群英會周瑜瞞蔣幹

孔明計伏周瑜

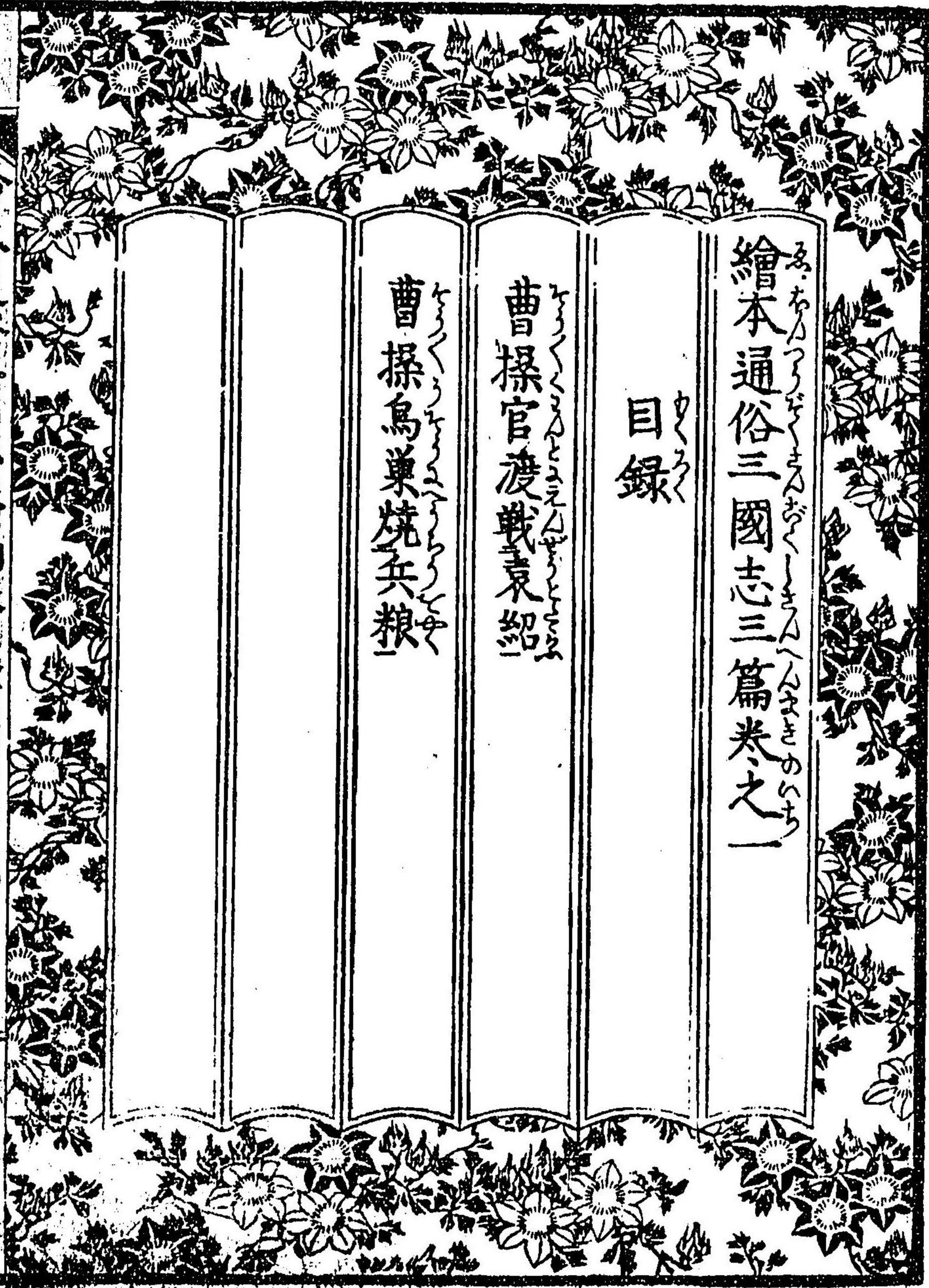
惣目錄終

繪本通俗三國志三篇卷之一

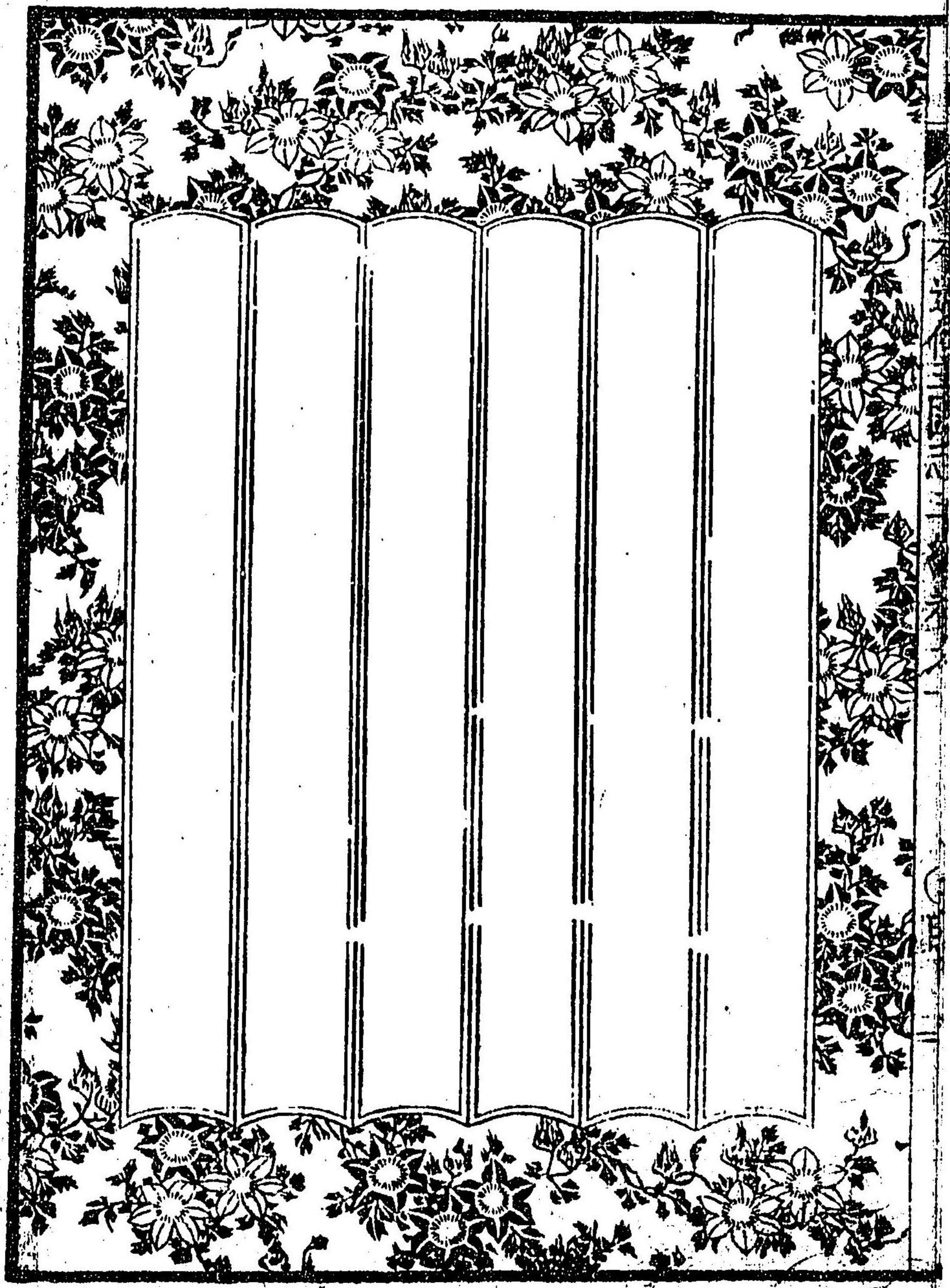
目錄

曹操官渡戰袁紹

曹操烏巢燒兵糧



繪本通俗三國志三篇卷之一



繪本通俗三國志三編卷之壹

曹操官渡戰袁紹

去むと云陳震吳より入りて袁紹を見へ孫策とて死しそ
 弟の孫權との基業を受曹操討虜將軍の官を贈りそ
 ともよ好む心さふと執りてんを袁紹大に怒りはぬ其及
 青及函以并及の兵を起し曹操を滅ぶとんとす。卒
 万騎の數とて入都とさし攻のち官渡の曹操が
 大将夏侯惇を殺す。陣を取居たりを早馬と打
 とす。よ注進を曹操あて驚き急兵とありのち
 折節在京の勢とて入りて七万余騎を率し大軍を引
 出首とて都とて入りて袁紹とて大軍を引

と出る。田豊又大に諫めたるは、境を定め、時を
 至ると待たず、大に兵を起し、入つて橋を断つ。是れ
 日比根の合戦の逢紀。さきとて究竟のころよとあるは、袁紹
 に見へて、言ひ、君よ仁義の師を起し、逆臣を伐め、志
 切の田豊不吉ある言ひ、了と。諸人の心とあはれ、いひ
 けき、袁紹いひ、田豊を斬んとせ。諸将もあつんと命を
 請ふ。はたの首加と入る。獄を下し、曹操と平す。のち
 を罪と正さんとす。大軍を率へて、打立、旌旗天を掩ひ、鎗
 刀林のごとく、武陽の行を陣ととり、さへ沮授を諫
 めて曰く、味方の勢をたんとし、敵の勢の勇猛なり、なむ
 敵の勢勇猛ありと、いふも、兵糧の澤山なること、味方及び

敵の兵糧の便と、おのれ入るまじう、戦ひと決せんことを諫む。
 味方より要害をとり、緩くと計とほし、月日を送るも、あつ
 敵のあつた兵糧の事と、大に戦ふと、敗るべし。袁紹いひ、
 ぞ、田豊不吉の言と出しく、諸人の心と迷へ、さへ囚ひ
 きて、獄中より、囚ひ入り、後斬んとあるは、汝も又是のど
 罪赦し、さへ首加と入る。陣中より囚へ置るも、曹操を破
 り、後田豊と一同に罪を正さんとす。あつた馳の兵と待てる
 へ都合その勢七十五万、四方九十里が、あつた陣屋とほく、まの
 ず、官渡より、さへ曹操が勢と失ふ。大にあつた曹
 操、諸将とあつた計と問ひ、首加と曰く、袁紹の勢と、
 といふも、拍らぬ、味方小勢あり、さへ勇猛なり、

一人の心は十人の心にあたる。たゞもてやるは戦ひを決しぬ。日
 校とあつて兵糧を乏しくする。曹操曰く「汝は天子の命を
 合へり」と。即時に下知をはく。然軍旗をさく。喚き叫ぶ
 ぞ射と蒐る。袁紹が方々の勢をばけく。出心之陣勢を以て
 き布く。殺氣天をひり。馬煙日と蔽く。袁紹が大將審配
 二万人の精兵をえんと。二手に分營を張く。両方より伏銃
 馬の精兵強弓の手垂五千余騎を門旗の内より伏置て鉄
 炮とあふまると合圍をめぐく。射掛くと下知とあふ。斯く北
 國の軍中より三通の鼓を打けむ。袁紹金の盗といふを錦
 の袍に玉帯をうけ馬と一陣に乗出。張郃高覽韓猛
 淳于瓊とあふといふ大將と両旁より立はる。孫曹操あふく

一言とやきんと呼りぬ。南方の軍中より門旗をひらた。曹操
 馬と陣前におとせ。許褚張遼徐晃李典于禁樂進歩を左
 右にばらね。鞭とあげて袁紹とさ。天子を奏すと。甬を
 大將軍の封に北國の勢をはるさ。むるをよへ。謀る
 するはあふりぞと呼りぬ。袁紹いうや。汝は天子の命を
 王莽董卓よりもとるぞ。何とて人を謀る人。とて
 といふぞ。曹操曰く。今勅命を受く。汝は伐袁紹が
 曰く。天子の詔詞を受く。汝がとて逆臣と誅戮す。曹操
 大に怒り。張遼出よと去る。張遼馬をこがく。斬る。系
 袁紹が傍らより。張郃はと踊り出。二人火をちく。五十余合

戦へとも勝負の色も「曹操驚いて彼をいふと去れば許都
を去るは必ず大難のとき也」真地暗に斬るものも袁紹の陣より
高覽鎗をひきつと蒐出時うらまざる戦ひたかひは難雄と
たざるものも曹操が陣より夏侯惇曹洪二千余騎二手よりのと
るものも西亭より攻蒐る袁紹の陣より審配の孫と将臺の
高覽もよのおの軍のやうと規ひらる。曹操が勢の攻来るを
く合圍の鉄炮をひきつらば西方の伏勢一度は起りて雨のふ
るものも弩をばくをまゝ中軍の五千余騎馬と乗出ししと
ほち引はらるるものも射る曹操が勢面をむくばやあつて一度
を引と逃けしは袁紹の軍を引く追蒐敵と討つぬとさす。曹
操もいづく官渡の陣と取りしは袁紹の陣とすものも攻近く

とれは審配とさす出いし曹操打負く官渡の要害とまゐる。
味方十方の勢をひきつと彼が陣のまゝ土とさす山と築せ射手
とその頂よのおせ敵の陣中と目下さんあるものも雨の降どく射
させあつて曹操あつて打弁と走るものも「そのおと攻むる
とれは都と取りの掌中とありと去るものも袁紹もさすまたひ力の
強きものもさす。鋤鉄ととち土と荷く。ひとく曹操が陣
よも「寄土と壘」不日山とほり出せし元来その官
渡とやの廻り三十余里は逆茂木とひきつたつた大河あがまで
後よ大山とびくは袁紹いう攻るものも近付得どとぞと入
りたる曹操敵の山と築くものもいせんと去けしは張遼許
褚とさすものも討と出く踏むものも一度は

と突出一つども審配が怒り殺す。殺すに人びきりて入る。十日より十日。築山まで成就しけむ。その頂は五十余座の高櫓なり。千張の弩と雨のふるごとく射下し。曹操が軍中へ入る。怖れ。楯をひきりて頭をうら。地はあり。身とのぐる。袁紹が入勢。まきとんと。一度は弩をば。まき。ちあきとんと笑ひのける。曹操まきまき。まき。諸將をめ。といひまき。劉曄が曰まきと防。火発石車とほくりと打破るべし。曹操まきまき。ねて日は。猛る。弩百乘とほり。四方を具へ。敵の築山をひき。あひせ。袁紹が勢の山へおると。一度は発石車とひき。まき。車の上より鉄炮をど。り出。大石虚空にあたり。あがり。山のうへある高矢倉と。ぐ。微塵の

あり。死するもの。そのねとまき。袁紹が勢。まきの車と。審配車と。号し。ちが。怖れ。そのちより。一人は山へおると。審配又ひとの計をたんと。屈強の精兵と。と。掘子軍と号し。鉄と。地の底を掘路と。り。曹操が陣を。曹操の体と。劉曄が問。劉曄が曰まき。袁紹が勢。攻る。地の底より入ると。味方まき。拒。陣屋のまき。掘と。掘切。敵の計。曹操が喜。夜。日。継。斬。袁紹が勢。入。徒。力。八月。九月。勝負。曹操官渡。馬。兵。狼。斯。叶。

官渡をさぐる都み入らんとの内一決せざりしをいふ
書簡とて人の都へのおせり。荀彧の計策とて荀彧が
たふる書と曰

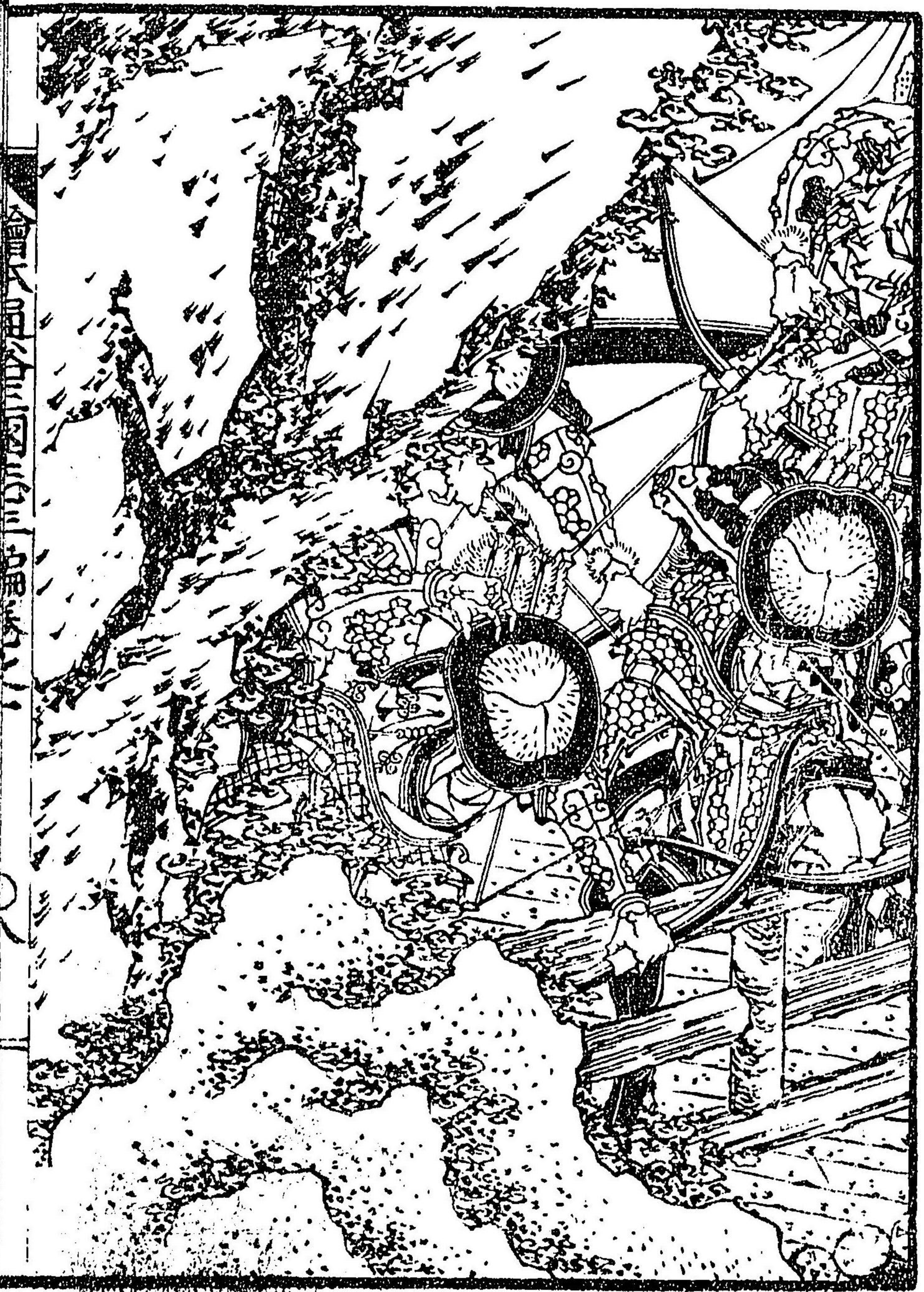
奉義尊命使決進退之疑愚意論袁紹必將其衆
聚于官渡欲與明公決勝負公以至弱當至強若
不能制必為所乘是天下之大機也但紹乃布衣
雄耳能聚人而不能伏以公之神武明哲而輔
以大順何向而不濟今軍實雖少未若楚豫在荊
陽成臯間也是皆劉項莫肯先退先退者則勢
屈也公以十分居一之衆畫地而守之扼其喉而不得
進已半羊矣情見勢竭必將有變此用武之時

不可失也區々拙見盡竭忠誠惟明公裁察焉

曹操ひたつんと文を喜び熱將を相觸いさく力をばくし守
らせけむい袁紹も攻めむとて日と経る二十余里引きどく
曹操ひそるは候といと敵陣の中すすは規合せると徐
晃が組の大將を史渙といふもの袁紹が兵を捉来たり徐晃生
取とて殺し引出物とせと袁紹が陣中のつと問はまは
袁紹近比韓猛といふもの大將とておやくの兵糧を陣
中へ運がしむ某ホいとの路指南を出たるものありと答へる
徐晃そのものを引く曹操見へ右の趣きと熱りるを荀
攸が曰く韓猛は匹夫の勇をたのんとてえあはど敵とわらんが
將あり味方は一人の大將とえらび騎馬の精兵數千を遣

かりと半途よく討しちむ。うあふと敵の兵糧を奪ふ。袁紹が勢
 あつた乱を亂とて曹操が曰く誰ぞをえんと大將とせん荀攸が
 曰たは徐晃はあつたを叶す。曹操すあつち徐晃を大將と
 し史渙とともぬ千の精兵を率し。硫黄焰硝を用意し先
 手よす。まは張遼許褚も六千余騎を付二手もつけ後陣
 も打し。その夜袁紹も大將韓猛士卒と下知し。ぬ千輛の兵
 糧を運びくるがあつたぬ必の内より徐晃史渙三千余騎
 も斬り出せり。韓猛大いり馬をとびし。徐晃と戦ふ不史
 渙兵と下知し。敵の人夫と追散し。一度も火を付ず。兵糧を焼
 けしを韓猛防ぎとあつた馬とらひて逃走る徐晃兵とぞく
 敵の兵糧を焼はくせしを袁紹西北の方より火の起るとのぞ

んど。あつた如何と驚く。敗軍の士卒逃回り。敵の兵糧を
 焼きたりと告げし。張邈高覽二人の大將も命と大道
 より出せ。敵の久あつた。去程徐晃も多の兵糧を
 き益し。こふ帰るも張邈高覽が勢。路を塞ぐ徐晃
 馬とらひ。鋒もまへんとせん。城の喊の声とあつた。張邈
 高覽も勢し。立張遼許褚六千余騎も討し。竟
 両旁より攻む。河北の勢。卷千ちらび。まへんと敗北を
 徐晃勝軍と収め。官渡の陣より入り。曹操も喜び。諸
 軍も恩賞とせし。一手の勢と陣外も出し。柵逆茂本
 とかぬへ。犄角の勢とあつた。袁紹も兵糧を奪ふ。命と
 ころいり。韓猛もきし。と去る。諸將も命と



徳川幕府の御旗本



袁紹勢曹操が陣へ怒るとす

徳川幕府の御旗本

審配曰く兵糧は軍中の重
んぶるものなり。用ひざるべし。烏巢の東方の兵糧
を貯へたるものあり。さあむとて大勢のもの守りしめ。袁紹曰く
と。計畧を以て定むるは汝の鄴都より。兵糧と兵糧
一と。某とて去るべし。袁紹曰く。と。軍とて二十五年。
こゝへ。汝の審配が重任のあり。輕くしたと。審配曰く
す。汝の行くと。兵糧と運べし。と。年とて。審配曰く
と。鄴都より。袁紹とて。淳于瓊を大将とて。賈
元進。韓福。子呂威。横。趙。敵。ホと。副。二万余騎。と。烏
巢の兵糧を守りしめ。との。淳于瓊の仲簡と。常

酒を好む。性さう。手下の勢。怖ま。安
と。烏巢の守と。兼。かの。陣と。高。と。要
要害。險阻。一と。敵の来るべきや。安閑の
と。油。新。一。毎日。熟。将と。酒と。飲。と。怠。たり。居
り。る。曹操の官渡の要害と。の。日。と。兵糧と
を。運。せ。と。書。簡。と。は。と。荀。或。任。峻。の。催。使。兵糧
と。袁。紹。が。兵。と。生。取。と。許。攸。字。の。子。遠。と。南。陽。の。人。あり。る。が。生。付。儂。り。放。ま。し。と。金。銀。と
の。少。う。り。と。き。の。曹。操。と。交。たり。今。袁。紹。の。事。と。謀。士
り。彼。生。取。と。し。よ。せ。曹。操。が。書。簡。と。し。出。し。と。

陣を来りなまき、袁紹問て曰く汝らあるは、許攸が
 今曹操とくく兵を引く。官渡の陣をわく守り、味方の
 大軍を妨んとす。某量り、都の内をあたひ守、勢を
 かんは、騎馬の精兵をひき、都を襲ふ。許昌
 と取り、手の内をわく。漢の天子を奪ひ、そのち
 曹操を征伐せむ。立處を生取べし。萬一曹操を生取む
 前後より攻むとて、味方の利十分あり。曹操が陣兵糧
 まで益入り、けし、前後よりせむ。曹操が書簡を
 見せ、袁紹曰く曹操の辣りの計、界をめぐり、此
 書簡のうらむ。許攸は、曹操を破らむ。許攸又曰く、
 都を攻

め、曹操が為と、擒とあふんと、再三、
 不、勿、心、鄴、郡、より、飛、脚、到、来、し、と、審、配、を、書、簡、に、い、は、し、袁
 紹、ひ、か、た、え、る、と、い、は、し、兵、糧、の、り、と、い、は、し、然、る、に、許、攸、其、の、
 め、と、い、は、し、と、い、は、し、百、姓、の、賄、賂、と、い、は、し、一、族、の、羊、貢、の、私、欲、と、い、は、し、
 わ、と、い、は、し、と、い、は、し、金、銀、と、い、は、し、と、い、は、し、取、り、と、い、は、し、の、比、分、明、と、い、は、し、露、見、の、あ、い、
 と、い、は、し、と、い、は、し、捕、へ、と、い、は、し、と、い、は、し、獄、と、い、は、し、と、い、は、し、下、し、と、い、は、し、の、罪、を、糾、問、さ、し、と、い、は、し、証、據、明、白、あ、り、
 と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、
 面、目、の、り、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、
 ら、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、
 の、虚、を、討、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、
 首、を、預、置、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、と、い、は、し、

天とあていづ長嘆。忠言入らば耳は逆ひ豎子とせしむる。客もまう
のまが一族のすむ審配の害をせんむらひのまもみ人の面目ありと
天下の人の見ゆべしと。剣と板とつら首と切んとしるを謀
人まうゆ。いづれもあまんとく大死と。むかぞ。袁紹ありと世と治
む。此のよあらはしと人の忠言と納むのちうあるを曹操とある
おさるべし。君おんと曹操と事し。ちうの好をまひてふと。暗を
棄て。明あるよ就むなると。さちちひと。許攸と。もと。卒は
五六騎とひら。曹操と。降参と。さ。袁紹と。陣の盡ぬ
驗あり

曹操烏巢焼兵粮

許攸五六騎と引く。官渡に至りて。曹操が伏兵を取圍んで

生取んとす。許攸きつと。汝は無禮なるものなり。曹丞相
の旧き友あり。そを本陣に行き。南陽の許攸きたりて。やせと
いひしを。士卒いと怒まの由と報す。まのよと曹操の衣を
休居らる。許攸が来ることを。いと大に喜び。復とて。いひしを
び。既しと。出む。入手と。いひて。大に喜び。許攸と。来る
まが。事成就す。といひ。轅門のうら。いひ。さ。さ。喜ば
らる。ひとも。陣中に入と。も。の物熱す。曹操まづ。地上に拜
し。と。許攸たす。は。起して。曰。足下は。漢の丞相。昔
の布衣の匹夫あり。あま。右尊厳。入る。曹操
曰。御辺に。さ。い。い。曰。朋友あり。い。い。官職
下せん。許攸が。曰。某眼あり。あ。い。異あり。身と。屈め

袁紹の疑がけの計をさしおぼしむ用ひび忠言をせむ耳
逆いま退かすも亦亦来り幸の故人ある。紹がくち丞相我
と疑ひのよとある。曹操曰はくは御辺の忠義とま
る。あの疑ひはあつた。紹がくち袁紹と破るの計とあり
も入許攸曰はくは袁紹はさくち騎馬の精兵とさくち虚は
のりく都を襲ひ前後より攻んといふ。袁紹はさくち用
ひも。曹操さくちいふ。紹はさくち御辺の計とあり。い
もさくちいふ。生るごとく。いま袁紹はさくちあつた。大
くさくさかたがくち。紹がくち良計と教へんとく再拜す。許攸
曰はく。今丞相の軍中兵糧いさかきもの。曹操曰はく。二年の用
意あり。許攸曰はく。とくす。兵糧いさかき。いさかき。曹操曰はく。二年の用

意ありさくちあり。許攸曰はく。座を起し。実の心をばはる。汝ら
へさくち許攸のいさかき。其くとくさくち色と変わりと生る。色を
曹操さくちいふ。さくち曰はく。足下真とあり。入。真実とあり。入。
いさかき。陳と三月の内の兵糧あり。許攸曰はく。曰はく。さくちあり。さ
世の人も曹操の奸雄とあり。さくち。賢人あり。とあり。今また
さくち。是のごとく。曹操曰はく。曰はく。古の兵不厭詐とあり。い
あんと軽く。中さくちあり。いさかき。耳とばはける。今陳
中またさくちの月をさくちの兵糧あり。と私許し。許攸曰はく。い
ひつて言とあり。さくち。汝ら兵糧さくちの盡果たり。曹操曰はく。曰はく。曰はく。い
ひつて曰はく。さくち。とあり。許攸懷中より曹操の首
をさくち送る。書簡と出さくち。いさかき。何人の書たる。書とあり。言

曹操の書簡いふより得
 入る許攸使を主取たるぞ。何なるぞ告ぐ。曹操手と
 といひて曰く。汝がくちの好むもの計を教へ入許攸の
 目。丞相の計の難く。大敵を拒むのみ。凡そ勝つ
 べし。汝がくちの好むもの計あり。某の計あり。三日を
 ぞして袁紹が百萬の衆。戦ひて自然に曹操
 よろまんぞ。曰く。汝がくちの教へ入許攸の計。袁紹の兵糧とく
 く。故市の鳥巢をたぐへ。本陣をたぐへ。四十里あり。今
 淳于瓊と大将とてまを守らう。本國の曰く。運送の
 心。淳于瓊は酒を飲まぬ。計あり。丞相の強
 の精兵とあるぞ。北國の衆は立番のたぐひ。孫問をたぐひ

將高が手ろよのあり。兵糧と守護ととまへ。深くと使
 地入火とほけ。焼破りむ。袁紹が兵糧即時はきて。三
 日の内はあつらふ乱るべし。曹操大に喜び。許攸を陣中へ留
 置け。曰く。一騎當千の兵五千人とあるぞ。北國の勢は
 仕立。袁紹が旗幟とほくり。張遼いさめて曰く。袁紹が百萬
 の勢とある。兵糧の陣あり。大勢あり。汝がくちの
 計あり。許攸が計あり。若入む。曹
 操曰く。汝疑ふことあり。許攸の味方に来る。今も
 天す。袁紹とある。今も陣中の兵糧はきて。今も
 困るとある。方許攸詐りある。何んぞ。陣中へ留ら

へる。其の日比よきとて敵の兵糧を焼くとおもひてあり。御辺
 あらざる疑ふとあるは張遼が曰く、敵軍虚るのゆへ本
 陣に寄りよるひあらん。打出む。後の用ふとあるは、
 曹操もよみて曰く、よきとて策を定め置かりとて。荀攸賈
 翊之留りて許攸を陣中よと持成し。曹洪と大将として
 本陣とすもらせ。夏侯淵も一手の勢をばけて本陣
 の左よ伏曹仁李典の一手の勢をつけ、本陣の右よ伏若敵
 の寄るひあらん。油断するひあらん。よから五千の精兵
 と率し。張遼許褚を先手とし。徐晃于禁と後陣とし。入る
 救と含と馬の口と勅し。その日の昏方、官渡の本陣とてあま
 鳥巢としてよのび行時、建安五年十月二十三日あり。其のとき

沮授の袁紹と諫め、ゆへとゆへ、首如と入ら。軍中、因よ
 と居るが、その夜、天氣あつらぎ晴く、星の光輝あたらあり
 ことを、典獄の奉行をよび、今宵、星の光あたらあり吾天
 文と見るべし。外よ出せとて獄中より出せ、ひび天文と見
 せば、太白星逆行し、斗牛の分野とあら、沮授大に駭き
 き、袁紹に見入、ことと知ぐ、其のとき袁紹酒を飲で酔
 伏し、沮授が二大事とすといふとき、沮授とて問
 けせば、沮授が曰く、今宵天文と見ひ、太白星逆し、梟鬼のあ
 りと行くと、光あたらと、斗牛の分野と射る、あたら敵の兵
 ら、陣のうららと龍衣あらん。其のとき、鳥巢とて、其の兵
 糧あり、敵定むとあるを、却きとて、用心あり、叶はざる



曹探
袁紀
高夫舍小

うは精兵の猛將とほつて山際の道筋の番兵を置て曹操
 の計をあつてと免まの袁紹を怒り汝のさで罪を得た
 るものありあつて舌と揺てみづる諸人の心と感しむ
 るぞとらふ典獄の奉行とよびせ憎き己の沮授を首加と
 入てさく禁獄せよといひてあつて輕てさくさく出さる
 ぞとらふ一乃その奉行と斬死し別人とちて又沮授と獄に
 トさせらるる沮授外は出さるあつて嘆き味方の軍勢とるる日と
 ありあつて死敵いづくの土と汚き山とあつてといひて涙と出さる
 てあつて叔曹操の五千の精兵とあつて衆とあつて皆と薪と
 負て二更のさるる役所の前と通つてけり番兵あつてのぞと
 問曹操と入つてさき大將蔣奇命と受て烏巢の兵糧と

守らるる為と通つてあつてといひて袁紹が兵とあつて
 味さるる旗幟あつてけり御最とあつてとてけり山路
 とあつて免と問とのあつて初とあつて谷へつて袁紹が兵と
 よ他と相推りて阻つてあつてあつてあつて四更乃
 とあつて烏巢の陣屋とあつて曹操兵とあつて
 四方とあつてとあつて度とあつて城とあつて
 ひと討つてあつて酒と宿酒とあつて醒とあつて城のさつて
 ひとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 陣中へ入つてあつて四方とあつてあつてあつてあつて
 曹操とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 敵とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 馳走とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

よううれと拒ると去られ、曹操が曰く、敵は後へ近付
 ぐ。ゆゑときよ拒ぐべし。たゞ一手はあつて、前へむくと下知しや
 あつた叫んで、攻めよ。北国の勢とて、討き死に地上は普
 編く。火焔四方よとまのぞ。烟虚空よみだきたり。曹操後とき
 けんとく。さつ反せとて一同よとて反し。さへぐ。攻たりは
 の駐元進趙敵勿心ちり討きと。のの勢いさうく逃はる。
 曹操十分の打勝。淳于瓊その外の生取とて、ぐ耳や
 鼻を切手の指と落し、馬の上は縛り付あつた。立ぐ入る。
 とまよ。袁紹の早馬来て敵い。ま鳥巢と攻ると告る。曹嵩北の
 方とのぞちび火の光天とまが。喊の聲地とらまら。叔の鳥巢小師
 あり。救の兵と遣さんと去る。大將張郃とて、生とて曰く、某終

かく、高覽と二手よ分る。鳥巢の急とて、大に郭図が曰く、
 張郃が言るが意はあつた。今曹操深く鳥巢を攻め、
 味方の兵糧を襲とあれば、あつた。今から来るべし。
 曹操探出、とて、彼が官渡の本陣うあつた。空虚あるべし。今
 ういでも、彼が本陣とせば、虚よのゆゑ、忽ち破らん。志る
 とたへ鳥巢の敵の戦い、志りぞ、古の孫臑が魏
 とかまんと、韓とまよ。の計策あつた。張郃が曰く、志る。今曹操が
 兵とあつた。衆の計とて、外の生よ、内よ、備とて、用は
 ぎとらふ。今も、彼が本陣へ攻めりて、勝とあつた。鳥巢
 とたへ鳥巢とまよ。味方の大將とて、ぐ、擒とあつた。鳥巢
 一とまよ。味方の勢あつた。一日も命とばつた。郭図が

曰く曹操はたゞ兵糧を襲んとむろりせんはあり。あんぞ後の用心
 あらんとぞ。二人あらずて休ざりてまはる。袁紹すふら張郃高
 覽五千人余騎を付し官渡の陣を及させ。蔣奇二万余騎
 をはけし。烏巢の急をきく。しよあのとて曹操は烏巢の兵糧
 を焼く。敵の旗幟はうをひ取く。淳于瓊が敗軍を仕立て
 山際をとりてまはる。蔣奇一万余騎を救ひのたぢり馳來る。曹
 操が兵百騎二百騎をわたりし。旗をまいて蔣奇が勢の中
 へはしめて入る。まはる。何の勢かと問。曹操が兵をまいて烏
 巢の敗軍をまはるとまたたくと大將蔣奇が廻りちうくあり。蔣
 奇は張遼をばくりと。張遼許褚をまがし。蔣奇走る。このま
 とく張遼とびうりて蔣奇とたて。一刀の馬より下り斬る。おと

兩軍いよみどれと相戦ふ北国の勢。大將と討まそ。ほ
 ろあがよまきよまきよとてとれとと。落行ぞ。討る。その救と志を
 曹操大を喜び。又いひつて。袁紹が陣へ入る。蔣
 奇烏巢の戦ひは打勝もて。敵を追散し。心を御心とや
 す。今ゆくと云せる。まはる。袁紹をまを突く。蔣奇が使ありと
 あ。の。く。か。さ。ね。と。救。を。は。ら。さ。せ。張郃高覽は五千余騎
 を引く。直に官渡の陣へ推させ。左より復侯惇討せし。上
 右より曹仁討せし。寄手の勢かと両旁より。このまはる。龍曹
 洪又中央よりあ。の。ま。の。ぞ。三方より攻けし。張郃高覽大を
 やぶ。ま。と。く。残。少。の。討。ま。さ。れ。と。ん。ぐ。よ。逃。走。り。と。中。途。で。袁
 紹。と。ま。く。の。兵。と。出。あ。ひ。ふ。た。び。馬。の。足。と。立。ま。さ。せ。と。ん。ぐ。と。ま。さ。せ。と。ん。ぐ。

曹操が勝つありたる五千の精兵鳥巢より入りたる。さ
 おりもたつるを。嘆ひとて。黄たりの。袁紹がさすひろ
 獣かたし。ちひう。か。きんぐ。ある。袁紹敗軍を。たて
 り。た。淳于瓊。耳。鼻。あ。手。足。も。落。と。馬。縛
 ら。と。本陣へ。入り。来る。袁紹敗軍を。たて
 いう。た。鳥。巢。右。も。ろ。に。焼。た。と。問。は。つ。か
 へ。と。淳于將軍。酒。を。酔。ひ。い。由。へ。戦。ふ。と。あ。い。ま。し
 袁紹。大。い。ち。の。立。不。淳于瓊。を。斬。殺。し。け。さ。郭。図。の
 の。内。張。邰。高。覽。曹。操。を。本。陣。と。攻。め。あ。い。の。外。に。打。ま。け
 た。り。も。し。あ。の。へ。り。あ。い。あ。あ。と。い。く。勸。め。た。る。と。罪。を
 へ。と。あ。い。ま。し。袁紹。を。魏。言。し。張。邰。高。覽。二。人。味。方。の

破。ま。た。る。と。と。心。中。を。喜。び。ゆ。と。去。り。袁紹。あ。い。ひ
 曰。ま。い。ある。ゆ。人。ぞ。郭。図。が。曰。く。張。邰。高。覽。を。す。曹。操。の
 降。る。ろ。あ。い。の。ゆ。今。官。渡。を。い。と。し。君。の。命。と。用
 ひ。ご。と。軍。兵。と。損。あ。り。袁紹。大。い。の。奴。原。と。ま
 を。り。と。罪。と。正。さ。ん。と。使。と。ま。せ。と。ま。二。人。と。一。回。と。郭
 図。ま。い。と。張。邰。高。覽。が。方。へ。人。と。は。さ。い。ま
 袁紹。御。辺。ホ。の。敗。軍。せ。る。と。二。人。と。と。殺。さ。ん。と。用
 へ。と。告。さ。せ。た。る。と。忽。ち。袁紹。が。使。きた。り。二。事。あり
 を。本。陣。へ。入。り。ゆ。と。去。り。高。覽。問。て。曰。い。ある。大。事
 あり。と。や。と。使。答。て。曰。その。ゆ。と。早。く。入。り。た。ま
 高。覽。大。い。の。劍。と。抜。く。使。の。首。と。と。張。邰。馳

會通三國志三十八

いと曰ふ。あつては君の使と斬る。高覧が曰く。袁紹入の上は
 居てその心寛くききみどり。魏言と信じて。人と害まふ
 らば曹操がたや滅ぶ。身とまひて死を待たば
 人より。曹操は降参して。身とまひて死を待たば
 官渡の陣へ入はる。二人降参のす。報ぐれを復参
 悖。今張郃高覧が味方降参。虚実を
 曹操が曰く。徳を化さる。反心ある
 門と。張郃高覧甲と。地は曹
 操が對面。袁紹御辺二人の計と。何んぞ

敗北せん。伍子胥を争く。昔も。身と
 微子の殷と去韓信の漢と。功名と全
 御辺二人邪と去。正と取。微子韓信は
 張郃と偏將軍都亭侯と封。高覧と偏將軍東萊侯
 封。張郃字は雋。河間鄭人。曹操つ。武藝
 今味方あり。喜ぶ。鳥巢の兵糧と
 袁紹が陣。張郃高覧敵と。鳥巢の兵糧と
 焼まぬとき。魏軍も。失ひ。外
 曹操が。魏軍も。許攸と持成。先
 許攸又を。張郃高覧。先
 曹操も。兵と。曹操も

紹が陣はあしよぎ終夜攻戦く敵討をねと志せ
よとよんぐ軍と収めけよば長紹が勢大半討し曹操の
るやの幾千万といふよとて荀攸さく曹操は計告
て曰今いゆら味方の勢の手分せし路よりゆれ黄河乃
迎し出二手の酸枣とせざんと鄴都を攻一手の黎陽を經すよ
ゆら長紹は回る途と塞が三方より攻と沙汰せば長紹はあら
んちどろた兵とわひけ路とよまふよとて味方の勢と
た一手のあしよ勢ひよのゆれ攻入を長紹が本陣小勢あて
即時は破るべし曹操はうれしと喜び陣を觸たまへ兵と
まげと一手の鄴都と及一手の黎陽とむととるよとて沙
汰とせよとて按のゆれ長紹はの由とほく入やとくるの内大

は萬といそぎ三男長尚よ五万余騎とつけと鄴都とあつ
せ大将辛明よ五万余騎とつけと黎陽ととてか心曹操
ひそつと人といとて長紹が勢のよとて行くる本とらよ味
方の勢と八路とわちとさと一もためりつと大山のてとらと
くおめひて長紹は陣はよよせとるよと北国の勢あつてあつ
き戦んととらんと前後の度と失へてさへんべとあつと
ば長紹甲と着まよとあつと単衣幅巾よと馬よとびのひけ
よと嫡子長禪た一人志たかひ来るとや張遼許褚徐晃
千禁ホ千余騎よと追蒐よと生取んととせよとてよとて
あつて黄河とよりつて落と行曹操は大軍勝みのゆれ四方よ
り入まよと生とら分とらそのねとあつとよと長紹は重代の圖

書とまて。金銀絹帛足の踏もあ。地も落して。どのうも八百
 余騎のあゆ。飛ぶてく。逆のびま。曹操のつくとあ。こ
 ぎ。遂まてたる物とひひあ。先。鶴の降る。のを斬あ。つと
 首とると。八万余級血のあ。ま。瀟々。滿。黃河。を。吞。れ。て。死
 九る。屍。の。其。其。其。の。ま。げ。ま。異。あ。ら。ま。と。も。袁。紹。が。七。十。五。万。と
 き。あ。下。勢。ま。あ。の。と。た。滅。び。る。曹。操。大。の。打。勝。金。銀。絹。帛
 と。あ。入。と。謀。軍。と。勞。ら。ひ。遂。ま。と。ひ。ま。ら。る。図。書。の。中。より。往。來
 の。書。簡。一。束。を。檢。へ。い。と。一。と。ま。ま。と。ひ。ま。ら。る。都。の。残。る。朝
 廷。の。官。人。あ。る。ひ。ま。ら。陣。中。の。大。將。ひ。ま。ら。袁。紹。の。内。通。る。書
 簡。を。り。荀。攸。が。曰。く。遂。一。ま。の。書。簡。と。め。の。と。赤。據。と。し。野。心。の
 こ。の。と。ま。入。と。盡。く。あ。る。一。の。曹。操。が。曰。く。袁。紹。が。い。ま。あ。ひ。盛。る

るとま。い。の。ま。入。如何せん。と。あ。り。ひ。か。る。や。他人。と。あ。な。つ。と。ぐ
 く。書。簡。と。あ。ま。は。く。せ。い。ら。ま。卒。ま。あ。ら。び。問。さ。る。れ。ば。謀。人。其
 徳。と。感。ず。る。沮。授。の。機。中。の。あ。ら。ま。の。が。れ。去。り。あ。ら。ま。は。の。ま。生
 じ。ら。れ。と。曹。操。が。あ。り。ひ。出。け。る。を。曹。操。ひ。ら。一。面。の。交。り。あ。ら。ま
 座。と。起。こ。ひ。ま。ら。る。沮。授。聲。と。あ。び。ま。み。降。ら。ま。是。非
 あ。く。と。生。取。ま。た。る。あ。り。と。ま。ら。り。ま。曹。操。が。曰。く。袁。紹。と
 づ。ま。ら。と。御。邊。の。計。と。め。あ。ひ。ま。と。今。天。下。い。ま。ま。定。ま。ら。ま。ま
 御。邊。と。ま。の。事。と。計。ま。入。沮。授。が。曰。く。一。類。と。あ。袁。氏。の。恩。を
 め。あ。ら。ま。あ。ら。ま。の。時。臨。ん。ど。何。ん。ぞ。降。れ。せ。ん。と。足。下。憐
 こ。の。心。あ。ら。ま。片。時。ひ。ま。ら。某。が。首。と。斬。め。入。曹。操。が。曰。く。ま。ま。は。ま
 え。や。御。邊。と。め。あ。ら。ま。天。下。の。慮。ら。る。ま。ら。ま。と。と。あ。ら。ま。陣。中。と

持成るまじはだの日馬と盗入てのまき去入てせ。曹操さまと怒り。後の患とあさ入てと恐まき引上て斬せたる。その顔色す。あしむ亦せま。曹操大の集た。ま忠義の人の殺せり。と怒日涙とあが。慇懃ま。のう祭とあして。黄河乃渡。墳とき。忠烈沮君之墓と碑と書て建た。ま。然とあ涙とあ。感せ。り。ま。

繪本通俗三国志三編卷之一終

50

122
174
28



122
174
28

繪本通俗三國志

三編

一